

ホープ・インターナショナル開発機構

ホープは2014年10月、エチオピア南部諸民族州ボンケ地区ザジエ郡キチョ村で、女性の自立を目的とする自助グループ事業を開始しました。この事業で女性が自分たちを取り巻く環境や経済の在り方について考え、家庭内やコミュニティーでの意思決定への参加、収入確保のための経済活動に積極的に関与できる社会づくりを促進しています。

伝統的に男性が意思決定権を持ち、女性が社会活動に参加することが許されないこの村で住民の意識を変えていくのは簡単ではありません。しかし、村長をはじめとする村のリーダーとの話し合いや住民全体会議を繰り返し行い、事業への理解と女性による積極的参加の重要性を説明し、ようやく女性のみで構成される自助グループが発足されました。その内のひとつ、グルー

プ名Garzeta Anbessa (訳 ライオンのように強く)のメンバーのアスターさんは次の様に話してくれました。「ホープから自助グループの話聞き、夫に話をしましたが参加を許しませんでした。今の環境を変えたくて何度も説得した結果、許しを得ることができ、自助グループに参加することができました。預貯金、現金収入

を得るための経済活動、ローンの組み方、返済の仕方などを学び、今では野菜を売って現金収入を得られるまでになりました。今、とても幸せです。」

グループ名からも想像できるように、女性たちが社会的に自立し強くなるとういう意思が伝わってきます。ホープは彼女たちを支援し続けたいと思います。



ミーティング中の自助グループ「Garzeta Anbessa」

(水野奈津美)